

発行者：秦野市議会議員
やひろ伸二



議会だより

連絡先：
〒259-1392 秦野市堀山下1番地
TEL. 0463-88-2777 (後援会事務所)
ホームページ：http://www.shinjiyahiro.com

平成30年 秦野市議会 第3回定例会報告！



秦野市議会第3回定例会(9月議会(決算議会))が9月4日から10月3日の会期中に開催され、平成29年度決算の認定を含めた市長提出議案13件、報告7件、諮問1件、陳情3件、委員会提出議案2件などを審議・議決し閉会しました。主な内容は以下の通りです。

1. 秦野駅北口駐輪場にペDESTリアンデッキ



来年5月7日に完成予定の秦野駅北口駐輪場にペDESTリアンデッキを設置するための仮契約が行われ、本契約(請負契約)とするため、議会に提案され、賛成全員で可決しました。

本件は、国の補助金などを利用し、多額の費用を費やしての建設となりますので、多くの方々に利用して頂くことを希望し賛成しました。

＜契約先や金額、工期など＞

契約先	古河産機システムズ株式会社横浜営業
契約金額	2億3,220万円(税込)
工期	～2019年10月31日

2. 新たに 高村 副市長が就任

市長の改選期以降1人となっていた副市長(宮村氏)に加え、今定例会の最終日、新たに **高村栄二** 副市長を追加採用する提案がなされ、賛成全員で承認しました。これまで私は「同じような職務担当となる副市長の追加は必要なく、市の課題を遂行する特任的な副市長であれば容認できる。」と訴えてきましたので賛成させて頂きました。

高村栄二氏の経歴は、神奈川県職員(県土整備局長など)や首都高速道路(株)執行役員などを歴任され、土地・道路行政には非常に強く、平成33年度に完成予定の新東名高速道路の周辺整備や、(仮称)秦野サービスエリア、国道246号バイパスなどの推進へ注力頂けるとことを期待しています。

3. 山下 市議会議員が副議長に就任

秦野市議会の副議長は、1年毎に交代することが慣例です。今定例会での選考は2人の候補者に絞られ、投票で同数となり抽選した結果、副議長に **山下博己** 市議会議員が就任することとなりました。

4. 平成29年度決算を認定

平成29年度の一般会計及び水道事業会計、ならびに3つの特別会計(国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療)と2つの企業会計(上下水道)の決算を認定(承認)しました。

一般会計の歳入総額は522億7,208万139円に対し、歳出総額は494億6,859万1,701円となり、歳入総額では対前年比5.6%増、歳出総額比でも4.0%といずれも増加となりました。前年度決算と比較し、法人市民税は1億5,990万円、個人市民税も3,221万円の増となり、市税全体では1億1,364万円(0.5%)の増となりました。しかしながら、少子高齢化の進行に伴い、扶助費は増加を続けており、単年度のプライマリーバランス(※)は赤字となり、財政状況は決して好転しているとは言えない状況です。

なお、各会計の金額は、下記の通りです。

＜平成29年度決算額＞

会計名		歳入額	歳出額
一般会計		522億7,208万円	494億6,859万円
特別会計	国民健康保険事業	202億2,518万円	199億34万円
	介護保険事業	113億6,558万円	111億8,195万円
	後期高齢者医療事業	20億6,260万円	19億6,714万円
企業会計	水道事業	30億3,615万円	28億5,997万円
	公共下水道事業	54億484万円	52億2,340万円
平成29年度 合計		943億6,644万円	906億139万円

平成28年度 合計	830億1,527万円	804億8,236万円
-----------	-------------	-------------

※プライマリーバランス：公債を除いた、歳入と歳出のバランスのこと。

5. 各種質問を行う

今定例会では、決算総括質疑(会派代表：75分)や予算決算常任委員会(総務：60分)、総務常任委員会、一般質問(60分)など、多岐にわたり質問をさせて頂きました。

なお、一般質問の内容につきましては、裏面をご覧ください。



▲新たに設置した質問席での一般質問(議会中継システムより)

平成30年 第3回定例会 一般質問内容 やひろ伸二



今定例会において、さらなる活用が求められる「図書館」について、また、平成37年度末に伊勢原清掃工場が停止することに伴う「ごみの減量」について一般質問を行いました。なお、「ごみの減量」については、9/29(土)発行の神奈川新聞に取り上げて頂きました。

1. ごみの減量について

〔質問〕

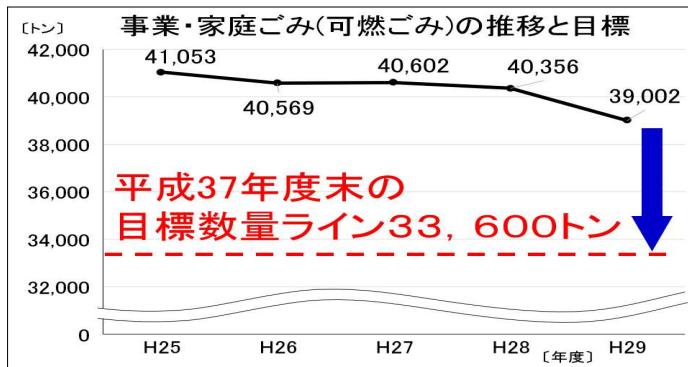
(1)平成37年度末に伊勢原清掃工場が停止し、1日当たり90トンのごみ焼却ができなくなる。現状の減量状況は？



- (2)平成33年度末、目標値の33,600トンをクリアできないと有料化の決断をしなければならないが、ごみ減量の最大の課題は？
- (3)高橋市長の減量に対する思いは？

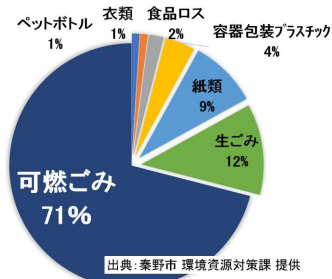
〔回答〕

(1)これまで、様々なゴミ減量施策を行い、平成29年度の可燃ごみ排出量は、対前年比で約1,300トンの減量となり、計画値より約400トン上回るペースでの減量を図った。また、今年度も8月末までの収集量では、前年同月の累計比で5.4%の減少となった。



(2)可燃ごみ減量の課題は、組成分析調査でも分かっているように、古紙類や容器包装プラスチック、食品ロス、衣類などの資源物が含まれており、さらなる分別徹底の周知が必要である。また、生ごみについては、生ごみ処理機による資源化を推奨しているが、約80%が水分であるため、十分な水切りでも減量効果は可能である。これらを踏まえ、それぞれの家庭に合った減量方法でごみ減量にご協力して頂くよう出前講座を拡大し周知・啓発に努めていく。

抜き取りによる組成分析結果(14か所全体)



- (3)もう一度原点に立ちかえり、資源物の分別の徹底を呼びかけるなど、市民の皆様とともに、知恵と工夫を結集し、あらゆる施策を推進していくことで、減量目標を達成できるよう努めていく(高橋市長)。

◆◆ 意見要望 ◆◆

ごみ減量は、平成33年度の状況により有料化とすることが判断することになっている。

平成37年度に目標の33,600トンをクリアできるよう、市と議会の総力を上げ、市民への協力を求め、ごみ無償を継続できるようにいきたいと思います。

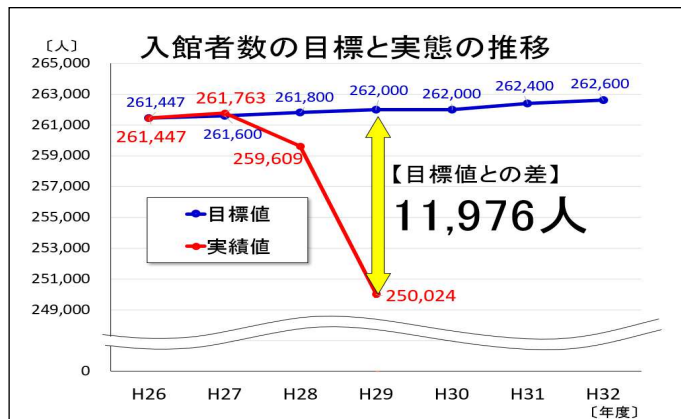
2. 図書館のさらなる活用について

〔質問〕

- (1)視察で伺った北海道滝川市立図書館は、人口約4万人にも関わらず、入館者は7年間で約3.5倍の129,542人とした。本市の平成29年度の図書館への入館者数は何人か？
- (2)滝川市立図書館では「待つ図書館から『行動する図書館』へ」と変え、臨時職員を含めた12.5人で精一杯知恵を出し合い、入館者を増やす努力をしているが、本市での入館者数が減った原因は？
- (3)図書館は、「地域の情報拠点」や「知の拠点」と言われているが、どのようにすれば実現できると考えているのか？

〔回答〕

(1)平成29年度の入館者数は250,024人で、目標の262,000人を11,976人と4.7%下回った。



- (2)入館者数が減少していることは、インターネットの普及なども影響していると考えている。
- (3)図書館蔵書の充実とともに、課題解決支援に向けたレファレンスサービスの強化、より積極的な情報収集と情報発信、学校や地域との連携など、一層の取組みが求められていますので、職員が誇りを持って図書館サービスの充実と向上に寄与できるよう全力で努めていきたい。

◆◆ 意見要望 ◆◆

本市の図書館運営は、入札による指定管理や業務委託としている。地域の情報拠点とするには、コストカットのみを考えた運営ではなく、職員全てが自ら考え動ける体制とするべきだと考えるため、真剣な検討をお願いする。